へ13
3749
20
Gôkan:(No. 0
Shaka Hassô.
Part 5 Book 2

門へ13
3749
20

女庫四拾一編

万亭著
玉貞画
己未春
彩雲堂
彫梓

釋迦八相倭文庫四拾一編序

夫賢と賢として色ハ易るハ妻乞雑子の春情色と色と

浅草文庫

勿論貞と正宗の廓通ひ迄も賢と賢とせゞて

色と色とをあらそける難陀大子も二貫十の戒ハ肝と冷て賢を

守れ万学の位ハ上る嘉あれば又善星童子の悪ゑある大欲却て無

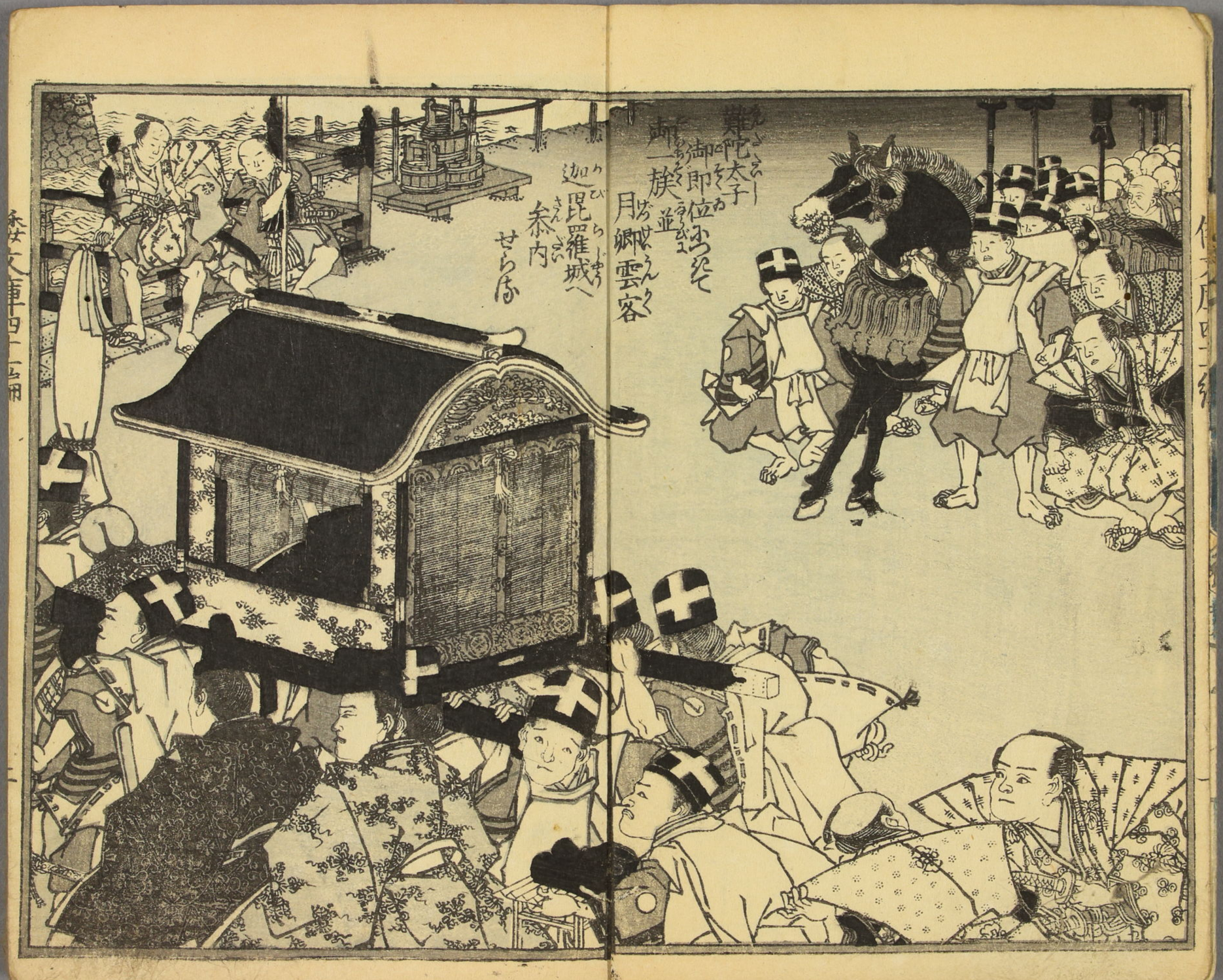
欲の中八尋ぬ壊の経文と舎利弗の危難ハ露ー花子ゞ入水の怨

ヨ火ハ彼田糸女ゞ絹川堤のその容体ハ彷彿る何國も今ゞ煩悩ハ了る

迷ひも菩提の種竟ハ仏果を得るなり

安政六巳未年孟陽吉旦

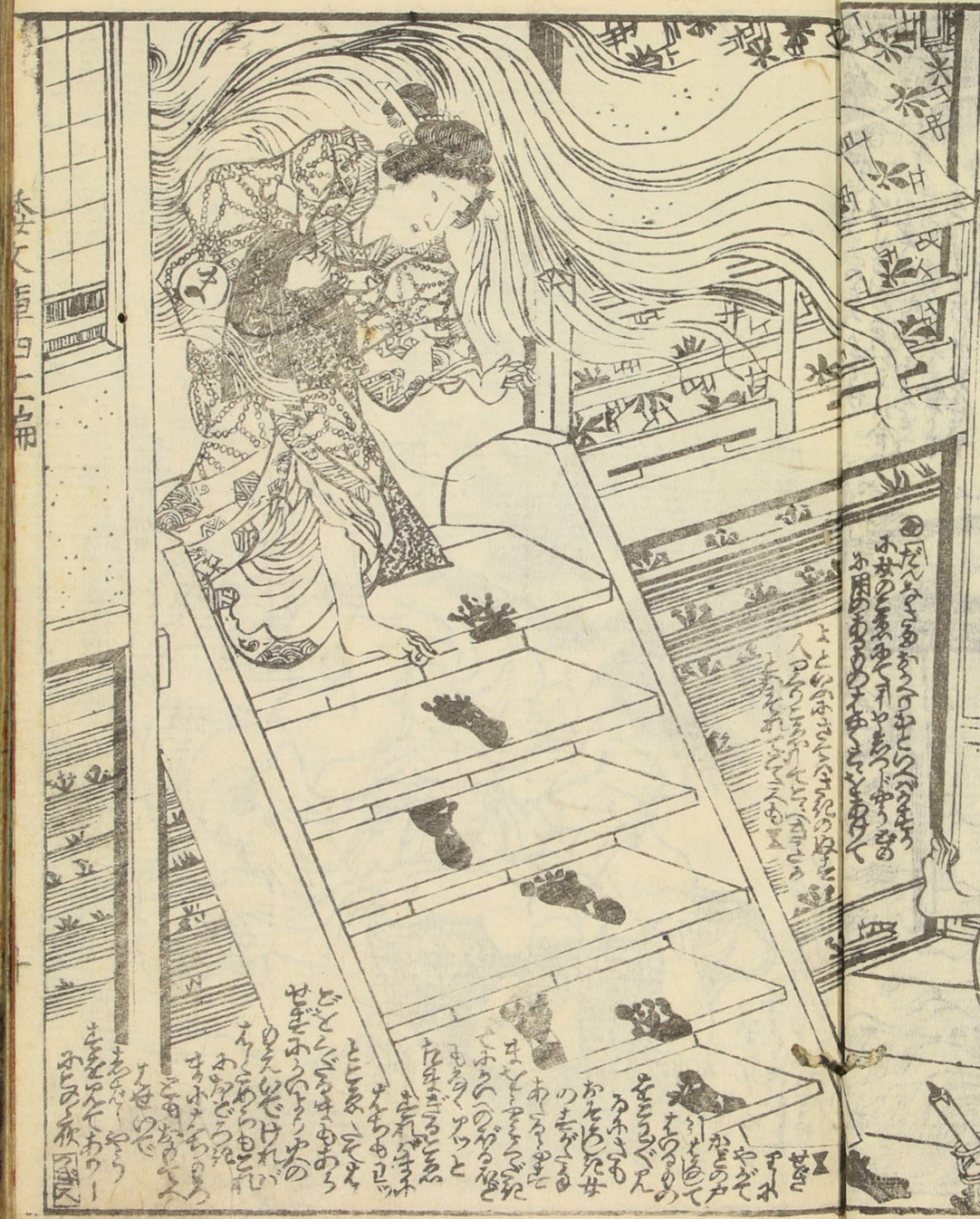
万亭應賀誌


難陀太子
御即位ふつそく
御一族並ぶ
月卿雲客
迦毘羅城へ
参内
せらる

離婆娑法師
亡八の肝煎
木訥の悴
牛と奪んとして
法師
離婆娑を
打擲せむ

亡八の肝煎
摩訶迦尼鉢
摩訶迦尼鉢

花



倭文庫 四十編 四十一編 四十二編 四十三編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 八編 永春水作 同

昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同

花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編 小本 形附 極上摺

〈重 繪州紙本類 人形町 上州屋重藏

倭文庫四拾編

万亭應賀作

己未春
新彫

歌川國貞画

下

文政
年
海老
花
鹿蛇
一寸の
しのぶ
とり重
はん

三
八
桜川重四郎

月

4

ア

立場茶屋

万亭應賀作 一壽齋國貞画

安政六年巳未春新板目録

俠文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画
男女振合　役替双六　同　一陽齋豊國画
武家奉公出世双六　同　同　画
奥奉公出世双六　同　同　画
子宝延命袋　全一冊　万亭應賀作　歌川芳玉画
重榮御江戸繪図　奉書四枚半續
浅草みやげ　初編五編合　十返舎一九作　文政五年新板　一陽齋豊國画

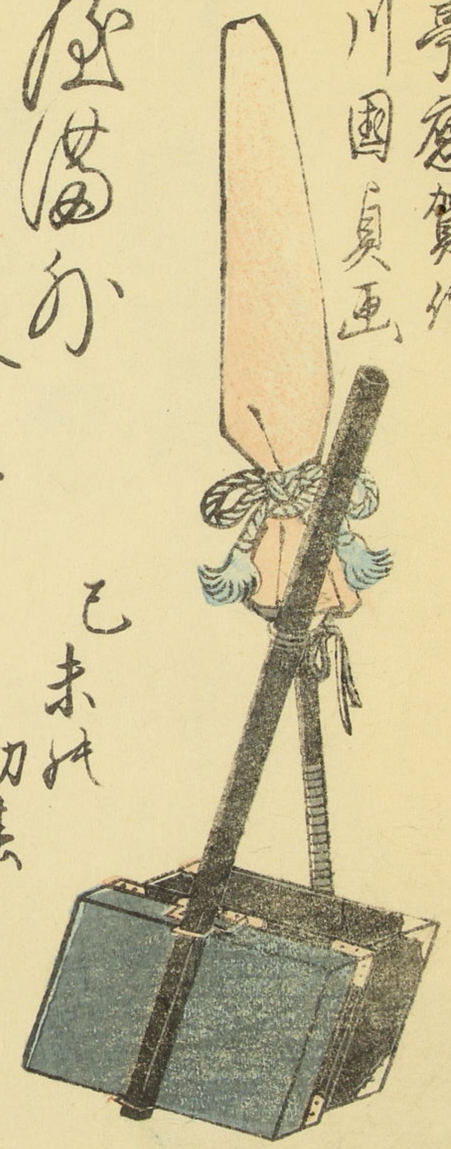
力亭應賀作

倭文庫四拾編

上

万亭應賀作
欲川國貞画

座敷かざり 文庫 四拾二編



己未歳初春

錦重堂
壽梅

釋迦八相倭文庫四拾二編序

夫天竺は百谷至の日満中にして無熱景天は五行の上德に中て色界の日月に昔の数は五寸にして一尺とも本朝陽より摩伽陀國を流沙の川口まで凡二千七百里と云々高川上に行て河リヒサラとゝ城あり此場は日本の空海と文殊と法談の所とゝ云ふ霊鷲山は河タイカイの都より四十二里流沙の川上にして三月より四月まで市を立るおもを八日市とゝ云ふ是は世尊の滅期より始てゝ市を立るゆへ也ども後をゝて前ふり揚前をゝて後に繰下る少戈利根の周手勝をゝ貧乏人の質種欲舊家の雑作に異を揚下ふく骨を折るの陳腐を誌るゝ註論のゝ尤終る所唯何事も大槩に涉推察あまねく云

安政六巳未歳
孟春新梓發行

万亭應賀述

阿闍世太子の
腹臣 軍婆羅
霊鷲山の梵天
頻婆
沙羅王
如閦達
長者の
法施の
珍寶
幾許を奪採る

座禅石

霊鷲山より四十二里流沙川の上にあり其盤の高さ二十二町流沙川の水上に覆峙て甚奇石なり

釋迦牟尼世尊

天竺の数目

一ヲ一ト云　二ヲ二ト云　三ヲ三ト云
四ヲ四ト云　五ヲ五ト云　六ヲ六ト云
七ヲ七ト云　八ヲ八ト云　九ヲ九ト云
十ヲ十ト云　百ヲ百ト云　万ヲ万ト云

広伽陀国の沈香

夜は八九月より三月まで夜なり　人は朝と夕方とのみ　ひるは八月より三月の日　夜は九月より三月まで

印度の名産

一珊瑚珠　流沙川恒河の江海の底より多くとる

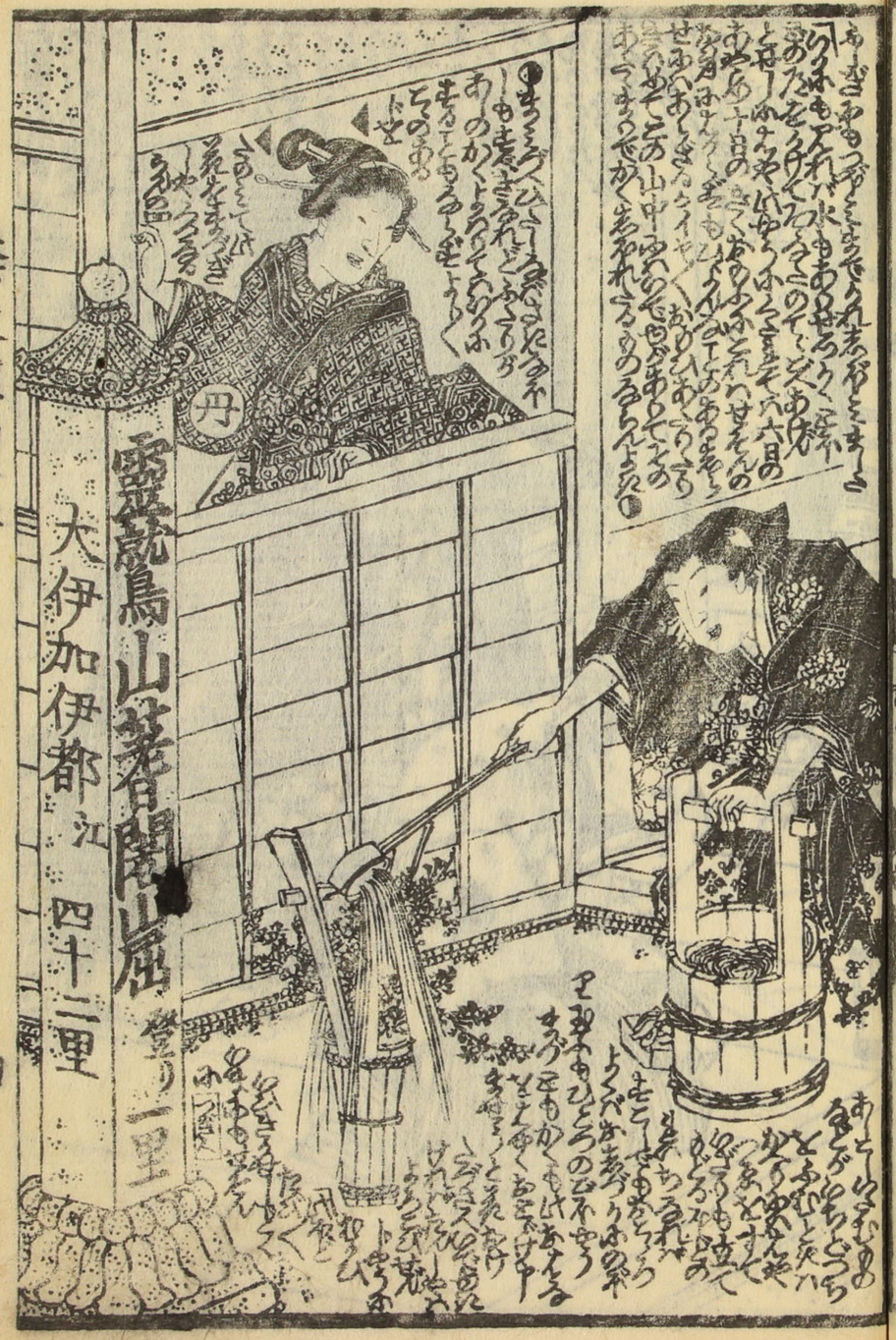
一奇楠　男女沈香とも

一狽夷羅　えをかくの用とも

一椰子　実も殼も用

一鯉鮒鱸　此外数多あり　これを佳味とす

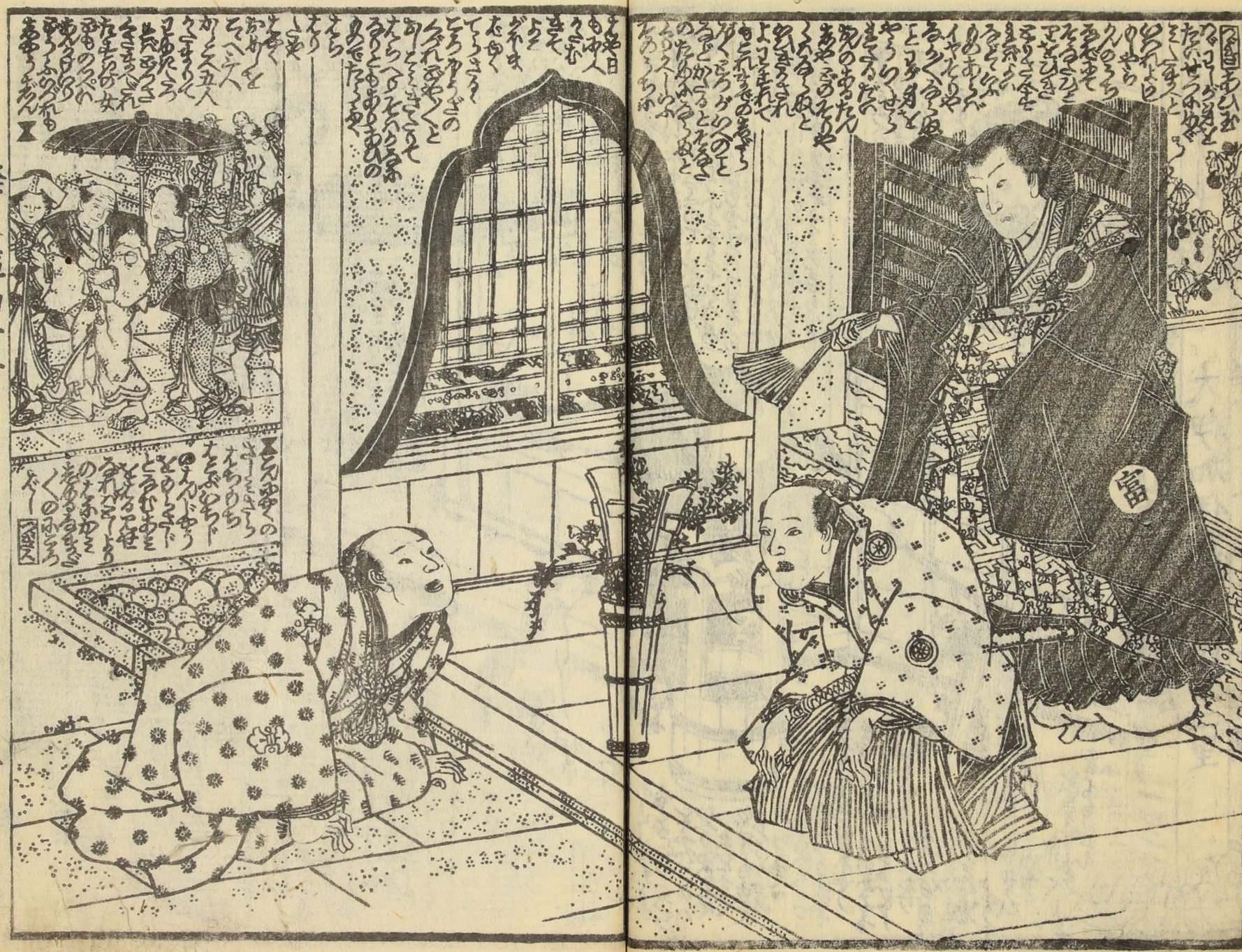
御酒宿

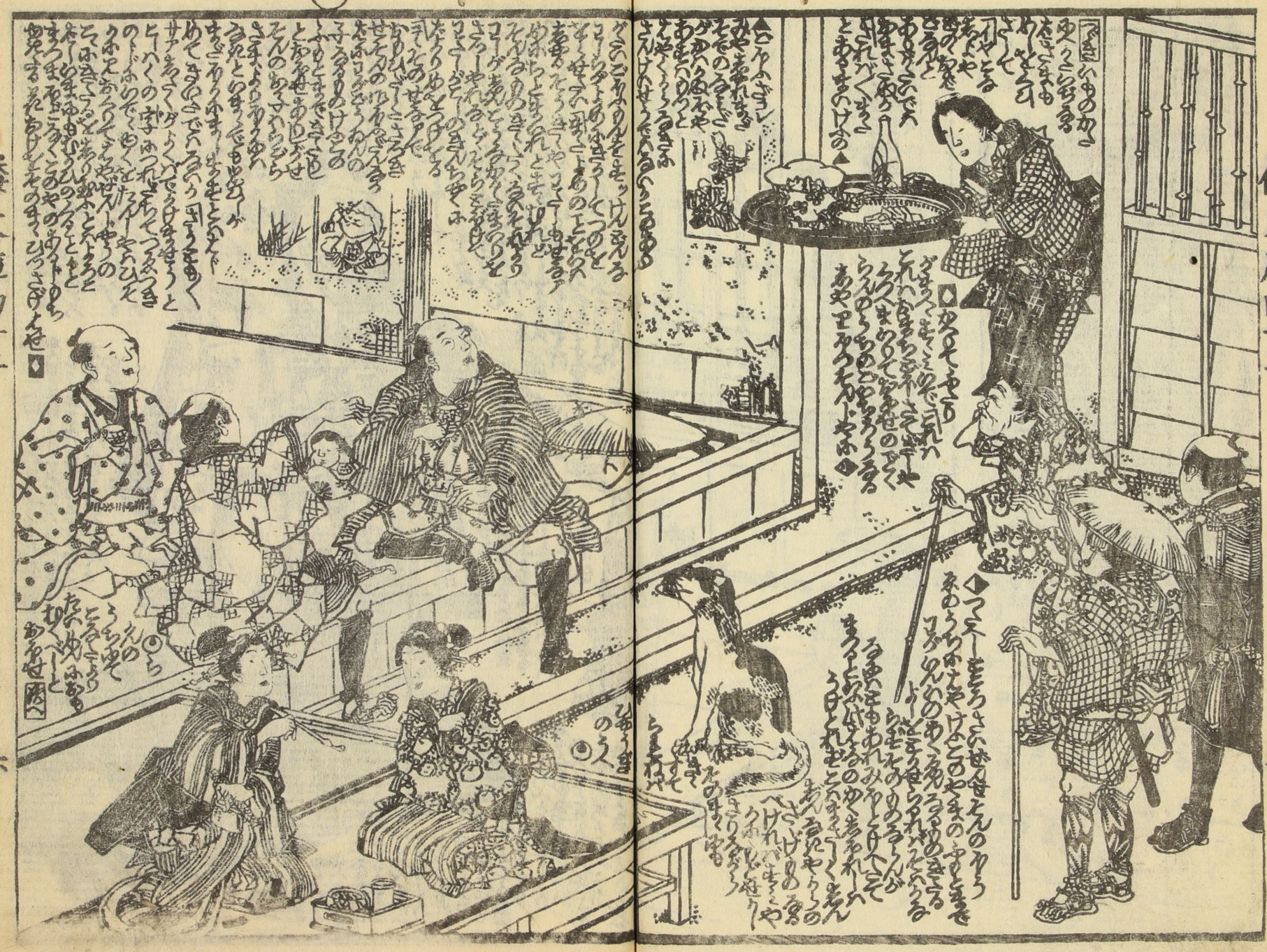


霊亀鳥山著聞山屈

大伊加伊都江　四十二里

登り一里


富



富
丹
佛

應賀作　國貞画

倭文庫　四十三編　四十四編　万亭應賀作
四十五編　四十六編　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　八編揃　為永春水作　同

昔語小栗實説　二編　松亭金水作　三編同

花山吹百人女郎　初編柳亭種彦作　二編同

浅草　みやげ　五編揃十返舎一九作　よりきり同

常磐津懐中本　初編二編　小年あり　三編四編　極上彩あり

上州屋重藏版

人形町

歌川國貞画

錦車堂版

下

ものまね
歌かるた
玉川屋画

せ

ゑ

仏利天正寺

諸行無常

定
米

万亭應賀作

一壽齋國貞画

安政七年庚申春新板目録

倭文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画		
春の手遊 将棋双六	同 歌川貞房画		
男女振合 役替双六	同 一陽齋豊國画	極まり一ろき 紙ものまあり	
武家奉公出世双六	同 同画		
興奉公出世双六	同 同画		
子宝延命袋	紅摺全二冊 同 歌川芳玉画		
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續		
大寶御江戸圖	極上摺 奉書六枚半續		

小倉百人一首